

平成 29 年 2 月 1 日発行

鳥取県埋蔵文化財センター 青谷調査室

# 青谷かみじち遺跡

## NEWS



Vol.

3

2017 Winter

発行：鳥取県埋蔵文化財センター  
青谷調査室

〒 689-0952

鳥取市青谷町青谷 667

鳥取市青谷町総合支所 2F

電話 0857-85-5011

日時 3月18日(土) 12:50～17:20  
会場 県民ふれあい会館



詳しくはこちら

<http://www.pref.tottori.lg.jp/item/1059822.htm#moduleid53631>

第1回とっとり弥生の王国シンポジウム  
倭人の食卓  
青谷上寺地遺跡と  
鳥取の食文化

平成 28 年度とっとり弥生の王国

1月21日(土)

海の村ー青谷上寺地遺跡

第5回 青谷かみじち遺跡土曜講座を開催！

山の村ー妻木晩田遺跡



今年度の最終回となる講座を開催。大山のふもとにある「むきばんだ村」から妻木晩田遺跡の調査研究担当者をゲストに迎え、トークセッションが盛り上がりました！山と海、一見、異なる環境にある二つの村跡。そこから見えてくる鳥取県の弥生時代とは？セッションでは「資源」「交易」「港」「ものづくり」などをキーワードにいろいろな意見を交換しました。平成 29 年度も楽しい講座を企画中です。皆さんも一緒に弥生時代の世界を想像してみませんか。

## あおや発掘通信

日本列島に初めてガラスがもたらされたのは弥生時代です。弥生時代には有力者を葬るために墳丘墓という大きなお墓をつくっています。このお墓を発掘すると、しばしば棺の中から、ビーズのような形の小玉（こだま）、細長い管玉（くだたま）、そして不思議な形をした勾玉（まがたま）など、ガラスの玉類が出土することがあります。どうやらガラスの玉を連ねたアクセサリーは身分の高い人の持ち物だったようです。

さて青谷上寺地遺跡では、これまでの発掘調査でガラスの玉類が約240点も出土しています。そして昨年の8〜12月にかけて行なった発掘調査では、ガラスの玉にかかわる重要な発見がありました。それは小さく砕かれたガラスの屑のかたまりです。大きさは約8ミリ。熱を受けたガラスの屑が、少し溶けて固まったものでした。

なぜ、このガラスの屑が重要な発見なのか。弥生時代のガラスは中国大陸や朝鮮半島を経てもたらされた貴重品でした。弥生時代の人びとは海の方から運ばれてきた貴重なガラスを砕いて、鋳型の中で溶かし、玉をつくっていたのです。今回、出土したガラスの屑のかたま

## 小さな大発見！

空色に輝く小さなガラス



昨年出土したガラス類 左2点：小玉、右：ガラス屑のかたまり

りは、ガラスで玉をつくる途中のものと考えられます。この発見により青谷上寺地遺跡でガラスの玉づくりが行われていたことが明らかになったのです。

青谷上寺地遺跡は弥生時代の交易拠点として栄えていました。日本海を行き交う船で運ばれてきた貴重なガラスを玉に加工する技術をもった人びとが「あおや村」には暮らしていたのです。

今年の7月頃から再び発掘を再開。次はいよいよ弥生時代の地層を本格的に調査します。今度は一体、何がみつかるのか。今から期待が膨らみます。